

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572207736		
法人名	有限会社 ホサカ		
事業所名	グループホーム ゆとりの里		
所在地	秋田県山本郡三種町浜田字村下343-1		
自己評価作成日	平成28年12月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	平成29年1月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム周辺は田園地帯と言うこともあり、のどかで、四季折々の風景を楽しむことができる。利用者様の状態や希望に合わせ、環境整備を心がけ、対応に努めている。また、開設当初からの職員や、在職期間の長い職員配置により馴染みの関係を維持しながらよりよいサービスの提供に心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

高齢の利用者が多く、100歳を超えた方も元気に穏やかに生活されています。心身の状態に変化があっても入居当時の利用者の思いを大切なものとして尊重し、日々の支援に活かせるように心がけています。代表が毎日ホームを訪れて職員と気兼ねなく対話できる状況があって要望が伝わりやすく、利用者ともコミュニケーションを図り、家庭的な雰囲気づくりの一翼を担っています。台所の作業台やテーブル等を使い勝手よく手作りされ、外回りも乱雑にならないよう工夫されており、ホーム内外の生活環境への配慮がみられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム玄関に、ホーム理念、スタッフ理念を掲げている。スタッフ理念は平成27年に意見を出し合い作り上げた物で、今年4月に職員会議において各自が理念に対する自己評価を行い、実践に取り組んでいる。	毎年スタッフ理念について全職員でサービス内容と照らし合わせて検証する機会を設け、実践に繋げる取り組みが行われています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームでの食材を近隣のスーパーマーケットや地元野菜の販売をしている野菜センターで購入し交流を図っている。また、地域自治会の主催で行われた、津波想定避難訓練に施設長、管理者が参加し地域住民、消防署員、警察署員と交流を図っている。	利用者が出かけることが少なくなっていますが、ボランティアや地元消防団の獅子舞がホームを訪れて利用者とは交流できる機会をつくっています。自治会に加入し、地域の一員として相互協力されています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	運営推進会議において自治会長、家族等の参加メンバーに対して認知症状についての事例発表を行い認知症に対する理解を深めていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では事故報告やホームでの状況を報告し参加して頂いた方より様々な意見を頂いている。また、実地指導、情報公表などについて報告を行いそこでの意見をサービス向上に活かしている。	行政、自治会長初め地域の方々が参加されており、ホームの取り組み内容について意見交換し、運営に反映できるよう取り組まれています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への参加により情報交換の場としている。また、電話等による空室情報、困難事例に対する相談など出来る関係を築いている。	包括支援センター職員が運営推進会議メンバーとなっていることから情報収集や相談等で連携されており、職員の研修にも協力していただいています。生活保護受給者の対応に福祉事務所とも協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルに基づき拘束をしないケアに取り組んでいる。	内外の研修を通して職員の理解を深め、サービス中の言葉遣いはお互いに注意し合う環境にあり、身体拘束をしないケアに取り組まれています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	地域包括支援センター職員による研修会を設け全職員が高齢者の虐待や権利擁護について学ぶ機会を設け、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修への参加や、研修に参加した職員による研修内容・資料を基に学ぶ機会を設けることで制度への理解を深め適切な活用・支援に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に十分な説明を行っていると思っている。今まで、契約や解約などによるトラブル等、特にない。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	目安箱を玄関に設置し、ポスターを掲示している。また、契約時に他の機関についての説明をしている。日々の日常会話や表情などからも理解できるよう職員間で情報交換に努めると共に、面会時などこまめに声をかけるなどしている。	年に1度要望記入用紙を家族に送付して意見の引き出しに努め、また支払いに訪れた時や電話で利用者の状況を説明しながら要望を聞き、反映できるように努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や申し送りなど職員の意見や提案を聞く機会があり、反映させている。また、日々の業務の中で意見が出た場合にも反映出来るように努めている。	代表が毎日ホームを訪れていることから要望が伝わりやすい環境にあり、職員の意見は反映されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業環境の整備には個々の実績や生活環境に配慮しながら整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加を計画し勧めている。また、研修を受けやすいように勤務調整をしている。新人職員には内部研修により技術の習得の機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	秋田県グループホーム連絡協議会に加入し交流出来るように努めている。また、講演会や研修会に参加出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様、ご家族様、利用されていたサービス機関より話を聞く機会を設け、出来る限り本人により深い信頼関係を築きながら受け止める努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様が話されやすい雰囲気をつくり、声掛けも忘れず、思いを受け止める努力をしている。また担当ケアマネージャーなどから話を聞くなど対応に努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と一緒に過ごす中で、一人ひとりの話を聞きく事で学ぶこともありコミュニケーション作りは良好であると思っている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や月々のお手紙で利用者様の近況をお知らせし、ご本人様と家族の絆を大事に共に支えて頂ける様に努力している。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様の意見を尊重し希望が叶えられるよう努めている。たとえば、かかりつけ医院の継続利用や通い慣れた理容室を利用して頂き関係がとぎれないように努めている。	遠方の家族が年に数度ホームを訪れ、感染症予防のために面会を制限している期間には電話をいただき、また行きつけの理美容院の利用や法事に出かける等、家族と代表、職員が協力して馴染みの関係が途切れないよう支援されています。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、なるべく孤立することのないようにソファの配置などに気を配り利用者様同士の関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	比較的契約を終了すると関係はなくなってしまっている。施設を移ってから食事状況等についての問い合わせに対する対応やその後の状況確認の連絡等に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様一人ひとりの思いを大切にし共に生活していく上で本人の意向を把握する事に努めている。担当職員がアセスメントを行い本人の状態の把握に努めている。	利用者との会話や日常の様子から利用者の理解に努め、生活に反映できるよう検討されています。職員の気付きは記録に残し、情報を共有しています。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々、生活して行く中での会話などから聞き取り、ご家族様、ご本人様が利用されていた他のサービス事業所などからも経過を聞き取るなどして把握出来るよう努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の暮らし方、心身状態を個人記録や申し送りノートなどを活用しながら把握するように努めている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の面会時などケアのあり方について話を聞くと共に、職員会議等において担当者や職員の意見を聞き、状態に応じて介護計画に反映し作成している。	毎月全員でカンファレンスを行い、入居当時の利用者の思いを大切に本人の状態を踏まえた介護計画の作成を心がけています。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録並びに業務日誌など活用しながら情報の共有に努め介護計画の見直しに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	様々な機関の方々より協力を得ることができている。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームへの入所以前のかかりつけ医の活用を心がけ、出来る限り関係を壊すことのないよう継続して一貫した治療が出来るように支援している。	利用者個々に希望する医療機関での受診、往診に対応されています。ホームの協力医が近所にあり、連携して支援されています。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医院の看護職員との関係作りは良好で電話での相談・連絡も比較的、出来ていると思われる。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関、家族との連絡をこまめに取り、早期退院が出来るよう努めている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームで出来ること、出来ないことを明確にしており、御家族様にも理解していただいている。またかかりつけ医とも相談しており看護師不在であるというホームの状態もご理解いただいている。	ホームでは看取りの対応ができないことを入居時に説明して理解していただき、更新時に再度確認されています。状態に応じて医師と家族が話し合えるよう段階的に対応されています。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	平成27年10月ホームにおいて三種消防署員の指導による心肺蘇生法の実践訓練を職員全員が受けている。また、年2回の避難訓練時において消防署員より対応についてのアドバイスを頂いている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は三種消防署立会いの下年2回実施し、月1回は火災想定自主訓練を行っている。平成28年11月三種消防署員立ち会いで地震・火災避難訓練を行った。また、災害時の避難等についても地区消防団の方への協力を依頼、同時に利用者の家族、自治会の方へ運営推進会議などを通して理解・協力が得られるように働きかけている。	運営推進会議に地域の方が参加されて情報、アドバイスを受けており、毎月の訓練や防災に活かされています。地域の避難訓練に参加し、職員が防災チェックをする体制をつくり、緊急時に備えています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりが人生の大先輩であることを認識し、利用者様の人格や誇りを傷つけないような丁寧な言葉使いや対応に配慮している。	方言の違い方によって利用者及び周囲に不快な思いをさせないよう気をつけています。トイレ使用時の本人が気にしないことでもさりげない対応と工夫をされています。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の日常生活の中で、思いや希望をさりげなく引き出せるように声かけや選択できる場面を作ったり自己決定して頂くなど配慮している。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴やお茶の時間など一人ひとりのペースや体調に合わせた生活が出来るように支援している。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みのある理・美容室や本人の希望する理・美容院に通ったり、訪問して頂けるように支援している。利用者様が好みの洋服を購入できるよう支援している。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の食事作りは一緒に行くことは困難になってきているが、テーブル拭きや箸を配ったり下膳等は利用者が行っている。ホームの畑の野菜の収穫や食材の下ごしらえなどは職員と一緒にしている。季節感のある食材を取り入れるようにしている。	山菜の下処理やだまこづくり等、利用者が一緒にできる献立を考えたり、畑で野菜を作り、楽しい食事に繋げる努力をされています。誕生日には行きたい場所を決めて職員と外食を楽しんでいます。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量の状況は個人記録に記入し把握している。ご本人様に合わせた食事の形態や提供を心がけている。年3回外部の栄養士(地域在住)に献立を見て頂き指導・助言をお願いしている。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔保持のため、毎食後うがいを促している。うがいが困難な方には口腔ケアシートを利用し口腔ケアに努めている。さらに夕食後は義歯使用者の方には義歯洗浄剤を使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターン、サインを把握し、声かけにてトイレ誘導するなどし、気持ちよく排泄して頂けるよう支援している。尿取りパットの種類など利用者様に合わせた対応をしている。	適切に誘導することによって排泄用品が不要になった事例もあり、習慣を活かしてトイレでの排泄を支援されています。機能は低下してきていますが、利用者の気持ちに配慮した支援が行われています。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者様一人ひとりの体調に合わせて水分摂取や体動を促し便秘の予防に努めている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴したい日、時間、順番を把握し利用者様の体調に合わせ、希望に添った入浴が出来るよう支援している。入浴を拒むような場合は無理じいせず本人の意志が向くような声かけや介助する職員を変更したりしている。	毎日入浴したい方もあり、その日の気分や体調に合わせて希望に沿った支援が行われています。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調やペースに合わせた声掛けで居室へ誘導し休息や気持ちよく眠れるように支援している。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録ファイルに服薬中の薬、効能・用法量について綴り、理解に努め他医療機関受診のさいに活用している。変更があった場合は、情報を共有し服薬後の観察も記録している。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を理解し、今できることから役割ができています。また、外出、行事等に参加することで気分転換となるように支援を心掛けている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い季節にはドライブ、買い物支援など戸外に出かけられるよう支援している。また、本人の希望があれば家族の協力を得て外出の支援をしている。	ホームに居ながら桜の時期にはお花見ができる環境であり、駐車場でお茶をいただきながら外気浴できる機会づくりもされています。野菜の収穫もでき、家族との外出も楽しんでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員が付き添いながら支払いをして頂き支払い後ノートに記入し、利用者様と確認しながらお金を所持している。一人ひとりの希望や能力に合わせ支援している。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば電話を掛けてさしあげたり家族等から電話がかかって来たときは気兼ねすることなく使用して頂いている。手紙や年賀状の支援も行っている。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間においては利用者様に不快な思いが生じないよう職員の声、テレビの音量等に配慮している。また、季節の花や置物、貼り絵を飾るなど居心地よく過ごせるように工夫している。	内装に木材が使用され、落ち着いた雰囲気がある居心地の良さを感じさせてくれます。非常口には段差解消のためのスロープが設置されて安心して通行でき、利用者同士で使用できるように椅子が置かれています。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	北側ホールには椅子や本棚を設置し、一人で過ごされたり、気の合った利用者様同士が思い思いに過ごせるよう、ホールのソファの配置を工夫している。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者様の使い慣れた物や好みの物を活用し、自宅に近い雰囲気や居心地良く過ごせるよう希望に沿って、畳や家具の配置等配慮している	居室内は整然としており、テレビや椅子等それぞれが好みのものを置いて安心感のある環境づくりをされています。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールや居室は環境を整え危険防止に努めている。一人ひとりの身体能力を活かして安全に出来るだけ自立した生活が送れるように工夫している。		